

“豊かで快適な環境づくり”をテーマとした、塗料・塗装を用いた建築物・建造物等のカラープランニングオープンコンペが本年も開催されました。

(審査会：2024年11月18日 東京塗料会館にて実施)

受賞作品
発表



最優秀賞

[新築部門]

医療法人杏和会 阪南病院B棟

(大阪府 外装 医療施設)

受賞代表者

株式会社 安井建築設計事務所 小田 祐司

株式会社 安井建築設計事務所 益田 正博・西野 培夫



<講評>本件の対象物件で建物全体のイメージを伝える重要な役割を担っているのは、積みレンガ、木製ルーバー、テラコッタルーバーであるが、それら自然素材の色をつなぎ・まとめ上げた外壁の塗装色は最も重要な役割といえるであろう。そして単にサポート役というだけでなく建物全体のイメージをけん引していくメインカラーとしての存在感も見せている。自然素材や植栽との調和を条件としたとき、この塗装色は最善の色選定であろう。さらに、左官調吹付の採用も本件のコンセプトを達成するためにはなくてはならない選択である。

<受賞者コメント>本建物は、計135床の全個室化を実現した精神科病棟です。既存病棟や駐車場、近隣住宅に囲まれた立地環境に加え、高いプライバシー性が求められる閉鎖病棟が主となる病棟構成であるため、豊かな緑や木・レンガ・テラコッタといった自然素材で建物全体を包み込み、外壁仕上はこれらと調和する有機的で優しい風合いの左官調塗装を採用しています。自然素材の茶系色と調和するベージュ系色の塗装仕上とすることで、建物全体がアースカラーで統一された温かみのある外観デザインとしており、またRC造であることから躯体保護やクラック追従性の観点で可とう性・耐久性・耐候性に優れた材料を選定しています。



特別賞

[新築部門]

医療複合施設 i-Mall

(大阪府 内外装 医療施設)

受賞代表者

医療法人医誠会 谷 幸治

一般財団法人 ホロニクス医学健康振興財団 谷 淑子
株式会社 安井建築設計事務所 東園 浩文



<講評>大きなボリュームの本物件は、建物形態と外壁色彩によって分節化を図ることで、多様な印象をもつ景観形成を実現している。上層部は、無彩色の高コントラストによるシャープな表現であり、グラウンドレベルでは色彩効果により豊かな体感を提供している。明るいアースカラーは植栽との親和性を生み、自然との融和性を演出する。またテクスチャーは、人とモノをつなぐ。そして純色系のフォーカルカラーが来訪者へのメッセージとなる。個々の要素は決して新しいものではないが、今を象徴し、歩いて楽しい印象がある。

<受賞者コメント>地域をつなぐ「賑わい」の一環となり、また地域に「安心安全」をもたらす新しい街づくりに寄与する「病院と劇場の複合建物」を完成させた。建物ファサードは、CUBEの積層をモチーフとし、様々なテクスチャーの塗料・材料を用いることで多様性を表現した。病院部分は清潔感のある白を基調とし、劇場部分では内外装に採用した多彩色特殊塗装によって、観覧までの心の高鳴りを一層高め、夜間の照明は街に活気をもたらす赤を基調に存在感を高めた。南北に通り抜けできる外部空間「アトストリート」より東側には、子供施設を配し屋上庭園や建物周囲に配した120本のソメイヨシノの緑が映えるアースカラーを基調とすることで、彩りをもった豊かな環境づくりに寄与している。



特別賞

[改修部門]

パークシティ鴻巣駅前プラザ

(埼玉県 外装 集合住宅)

受賞代表者

独立行政法人 都市再生機構 **濱生 有子**
株式会社 三岳企画設計 白石 光太郎 有限会社 CLIMAT 依田 彩



改修前



改修後

<講評>本件の周辺は落ち着いた住空間が広がり、また近傍には緑道や公園など魅力的な緑空間が形成されている。これらの既存環境を詳細に読み解き、元々あった団地全体のまとまり感と適度な変化を少ない色数で演出するという方針を立てている。結果、淡色基調と濃色基調の2種類の住棟によって、団地全体が統一感の中に抑揚の付いた環境となっている。この2種類の住棟はほとんど同じ色で構成されているように見えるが、実は明度と彩度を微妙に調整している。この丁寧な検討が見事に結実した作品といえるであろう。

<受賞者コメント>鴻巣駅前プラザは駅前という利便性の良さもありつつ、敷地内外の豊かな緑環境に恵まれた住宅街に立地しています。改修前は補助色の彩度がやや高く時代性を感じる外装色であり、一部では経年変化による老朽化の影響が見られました。

そこで既存の良い点を活かしつつより魅力的な建築意匠となるように、イメージを一新する色彩設計としました。具体的には、豊かな緑環境との調和や団地全体としての纏まり感を継承するため、基調色を暖色系の低彩度で統一しました。また駅前通りなど主要な視点場に対し適度な変化を演出するため、各住棟の形態・意匠の特性に合わせたアクセントカラーを展開することで、親しみやすく快適な空間作りを行っています。



特別賞

[改修部門]

コンフォール川崎富士見

(神奈川県 内外装 集合住宅)

受賞代表者

独立行政法人 都市再生機構 **児平 亜由子**
有限会社 クリマ 加藤 幸枝 殿



改修後



改修前

<講評>中庭を中心とした囲み型の住棟配置の集合住宅である。改修前は明るい基調色とやや暗めの部分壁の構成であったが、明度差が弱く単調な印象であった。さらにゆったりした敷地にあって解放感はあるものの落ち着きのない印象を持たれていた。改修では複数ある住棟を3層による積層感を共通の構成要素となるように塗分け、低層部に採用したダークグレイは、小面積の部位にも活用し、メリハリの利いた明暗コントラストと奥行き感や重厚感の表情に大きく寄与している。この効果はエントランスからエントランスホールの改修にも見られる。

<受賞者コメント>コンフォール川崎富士見の周辺環境は、川崎競馬場を始めとした大型施設が立地しており、区画がゆったりしているため、エリア全体で解放感を感じるのが特徴です。解放感のある周辺立地に対して、対象住棟は「囲み型配置」となっておりプライベート性が高く、自然豊かな中庭が魅力です。本計画では、囲み型の魅力を引き出し、周辺環境と調和を図り、自然豊かな屋外と住棟エントランスを繋ぎ、豊かなゆとりを生み出す計画としました。2.5Y系で統一感を演出、アクセントに明度を落としたり色を使用することで、自然の緑が印象的に見える、より質の高い住環境づくりを目指しました。



最優秀賞

[一般内装部門]

文京学院大学本郷 仁愛ホール

(東京都 内装 教育施設)

受賞代表者

株式会社 竹中工務店 **佐川 誓子**



改修後



改修前

<講評>改修前は、椅子の華やかさが空間のイメージの核となっていたが、改修後は椅子から飛び出した華やかな色光が壁や天井に拡散し、空間全体に波及して全感覚を振動させてしまうような圧倒的にきらびやかな雰囲気包まれている。外装の色彩設計では味わえない配色のパワーによって、色の持つイメージ効果が最大限発揮された、内装ならではの色彩設計である。

<受賞者コメント>1996年に村野・森建築事務所の設計により建てられた仁愛ホールは、834名を収容する学院の中心となる多目的ホールです。今回の天井耐震化工事で、既存天井を全面解体し、従来のデザインを尊重しながら、舞台を優美に彩るドレープ形状の曲線美を音響効果と共に再構築しました。

色彩は、既存の淡い色調を継承しつつ、ベースを桜色に、アクセントを藤色に設定。学院創立者島田依史子の校訓の一つである「仁愛」を体現するような、温かみと優しさに満ちた空間を目指しました。この新しい空間が、文京学院大学の皆様にとって、より一層愛着のある場所となることを願っています。



特別賞

[一般内装部門]

TK花梨ビル 階段室

(東京都 内装 企業施設)



改修後



改修前



受賞代表者

東邦株式会社 **磯部 進** 東邦化成株式会社 高橋 朗

<講評>単色の塗装だが、壁面に反射した光が複合的に重なり、柔らかな色光の中に佇んでいるような幻想的な雰囲気が生まれている。これは自然光と人工照明そして壁面色の相乗効果である。塗装面の光の効果は、塗装色の反射特性や光源の分光特性によって異なるので、近年ではシミュレーションソフトで予測しながら進めていく事例も見られる。今後はそのような設計プロセスの解説も含めた提案を期待しつつ受賞作とした。

<受賞者コメント>竣工後17年を経て、壁紙仕上げの階段室は継ぎ目でのメクラ、剥がれが目立って来たため、壁紙を撤去し、全面塗装仕上げに変えた。約10年前、壁紙の上に面毎に職人を変え、手が届く範囲を自分で塗装した。今回は高さ6mに達する面までを含む全面塗装とするため、職人さんに依頼した。建設時、セコンに何故断られたかは下地の作業を見て分かった。多彩な下地面に対する処理の手間が壁紙に比べ階段に多いのだ。今回は一色で仕上げたが、複雑な面同士の反射により、あたかもグラデーションを掛けたようだ。また漆喰塗料の持つしっかりと落ち着いた表面状態と防臭効果が密閉され易い階段室を快適にしている。



最優秀賞

[改修部門]

EPIC TOWER SHINYOKOHAMA

(神奈川県 内外装 企業施設)



改修後



改修前



受賞代表者 **大成建設株式会社 西田 勇人**

大成建設株式会社 小椋 圭介・渡邊 ゆたか

<講評>近年まちづくりにおいてランドレベルの重要性が謳われているが、その好事例となる物件である。マンションの改修では低層部の色彩を変更することによって、地域景観イメージの連続性を演出する事例はよく見かけるが、大型オフィスビルではこれまで独立性を重視する傾向にあり、中・低層部においても周辺景観を意識した改修はそれほど多くないなか、この作品は極めて新鮮であり今後の可能性を秘めている。また内装についても、改修イメージの方向性が外装デザインと連動しており、落ち着いた高級感のある色彩となっている。このような作品を通して色彩の役割はさらに高まるであろう。

<受賞者コメント>横浜市の環状2号線に面する築20年のオフィスビルの大規模改修計画である。コロナ禍以降、在宅勤務の普及によりオフィス需要が変化し、フレキシブルな働き方に対応したオフィスの需要が増加する市場環境の中で、周辺の競合するオフィスビルと差別化を図り、競争力を維持するためブランディングを意識した内外装をデザインすることでビルのイメージを一新した。特に低層部の外壁については、既存の大理石打込みPC板の上から人造石吹付塗装を施し、既存のPC板間目地を取り込んだモダンな目地デザインを展開し、高層部と調和した重厚な低層部としての構えを作り上げた。内装の既存の壁をなるべく残し、鉄部・ボード部双方に塗装可能な左官建材を用い、アクセントカラーの木質と調和する落ち着いたモダンな設えとしている。



優秀賞

[改修部門]

コトーつきみ野

(神奈川県 外装 集合住宅)



改修後



改修前

受賞代表者 **日本ペイント株式会社 佐藤 純子**

<講評>1987年の新築から2度目の塗装改修にあたる物件であるが、応募書類にまとめられた歴代の色彩設計の特徴は、それぞれの時代の景観色彩の実態や志向性を表していると考えられ、その変遷は興味深い。改修前は全体的に明るい雰囲気だが浅く均質的な印象で、改修後は暗すぎることなく落ち着いた深みのある表情へと変貌している。周辺の植栽に対して融和的に調和している表情となり、繊細で丁寧な配色計画である。この丁寧さは居住者への対応にも見られ、住民投票による選定過程がこれを物語っている。

<受賞者コメント>コトーつきみ野は、見られ頻度の高い大通り沿いに立地する大規模集合住宅です。竣工以来ホワイトカラーが定着しておりましたが、豊かな緑との調和、周辺環境との連続性をテーマに暖色系で色彩設計。また、周期ごとの大規模修繕工事は「建物の魅力を最大限に引き出す絶好のタイミング」と捉え、建物形状に沿った配色手法により高級感の創出、イメージの一新を図りました。穏やかなアイボリー、イエローページをグレイッシュブラウンで包み込むように分節化することで、建物の立体感や重厚感を強調しつつも圧迫感を与えないよう配慮し、街並みの価値を高める景観づくりを進めました。居住者様に、愛着を持ち永く住み続けていただくことを願います。



優秀賞

[改修部門]

トミンハイム国分寺泉町

(東京都 外装 集合住宅)



改修前



改修後

受賞代表者 **東京都住宅供給公社 鈴木 啓一郎**

東京都住宅供給公社 上岡 健二

<講評>本物件の設計プロセスを辿ると、建物の佇まいを整える際の色彩使用の作法を感じることができる。色彩計画によって、景観の色彩に関係する人やモノまた周辺環境などが円滑に連動し合う仕組みを模索しているようだ。大きく印象が変化したという改修ではなく、繊細な色の調整によって品よく佇む建物となり周辺景観とのなじみはひときわ進化したように見える。現状の色や形を整理して、煩雑さに向かう要素をそぎ落とす色彩設計の姿勢に設計者の力量を感じる。

<受賞者コメント>トミンハイム国分寺泉町は、隣接する都営住宅・UR住宅等と一帯となって開発された住宅です。JR西国分寺駅に近いことや、国分寺市役所新庁舎が移転して来ることもあり、今後ますます賑わいを見せていくと考えられます。そんな地域において周辺建物との関係性を踏まえ、これからこの住宅で「優しさと安心を感じられる、新たな住まい」を目指していきたいと思い、色彩計画を検討しました。街に溶け込む落ち着いたアースカラーを基調に全体をパランスよく配色し、下層階やエントランスでは賑わいを感じられる様なアクセントとなる配色を展開しています。今回の改修がお住まいの方々をはじめ地域の皆様の生活に彩りを与えられることを期待します。



優秀賞

[戸建改修部門] S様邸

(千葉県 外装 個人住宅)



改修後



改修前

受賞代表者 茂原住宅塗装 鬼原 裕之
茂原住宅塗装 鬼原 美奈子

<講評>改修前は必要以上の塗分けを感じさせるが、改修後は塗分け箇所を整理し、今風の色彩動向を採用しながら、まとまり感のあるさりげない佇まいとなっている。

<受賞者コメント>私たちが施工をする際に大切にしていることは、お客様に自分の家が一番だと思ってもらうことです。今回の施工は角をイメーシ、明度比での演出、そのための配色、そして色を魅せるために、質感にこだわった下塗り・上塗りの塗料選定をしています。今後も職人ならではの配色技術を追求し、お客様の理想の家づくりのお手伝いをしていきます。



優秀賞

[戸建改修部門] T様邸

(愛知県 外装 個人住宅)



改修後

改修前

受賞代表者 株式会社 TOM創屋 荒井 隆亨

<講評>気合いの入った丁寧な施工により、重層的な印象深い表情の佇まいを実現している。さらに戸建改修物件では前例にないほどの丁寧な提案資料から提案者の意気込みを感じさせた。
<受賞者コメント>建物に囲まれて正面のみしか、廻りから見えない環境でした。正面は間口も狭くその為、よく見える正面のみより手間を掛けて仕上げ、見えない残りの面は一般的な単色塗装で仕上げ、予算をなるべく抑える提案をしました。イメージを変える為に、ペランダの外壁は大きく色目を変えて、濃いレンガ調のエイジング塗装仕上げ、玄関廻りの壁は既存のイメージの再現多色塗装仕上げ、残りの単色塗装部分も元の色より少し濃くなるようにブラッキングしました。濃くイメージも変わり纏まりのある色の、お洒落な仕上がりになりました。お客様にも大変気に入っていただきました。



特別賞

[戸建改修部門] H様邸

(栃木県 外装 個人住宅)

受賞代表者 株式会社 郡山塗装 服部 公基



改修前

改修後

<講評>施主の要望に対して真摯に向き合い、奇をてらうことなく仕上げたスタイリッシュな物件で、改修工事によって印象を向上させた良い事例である。
<受賞者コメント>「グッドペインティングカラーコンテストにて受賞できたこと、心より感謝申し上げます。本作品は色彩の調和と個性を意識しながらお施主様と制作しました。受賞を機にさらに色彩技術を磨き、お施主様の満足度105%を目指していきたいと思っております。貴重な機会をくださったすべての方々に厚く御礼申し上げます。」



特別賞

[戸建改修部門] T様邸

(滋賀県 外装 個人住宅)

受賞代表者 株式会社 KEIKAN 佐野 湧哉



改修前

改修後

<講評>付帯物を含めた本物件の形状や構造の斬新さと、木部の風合いを大切に色彩設計のマッチングし、この建造物によって発信しようとする精神性を表しているようにも見える。
<受賞者コメント>「異なる種の外壁材」と「今後のライフプラン」を見据え、弊社オリジナル塗料「最高級無機+フッ素樹脂」を選定しました。艶を抑えた塗料は、落ち着いた雰囲気を出し、長年に渡って美観を保つことができます。また、お客様の拘りが詰まったお洒落な住宅デザインを損なわないよう、打ち合わせを重ねて施工を進めました。外壁の色を大きく変えつつも、元の色を残す工夫を凝らし、マットな仕上がりに木の温かみを感じられるようなバランスが取れたデザインに仕上げました。お客様だけでなく、審査員の皆様にもご評価いただけたことを大変光栄に思います。今後も意匠性・機能性に長ける施工を目指し、精進して参ります。

総評

グッド・ペインティング・カラーは今回で第27回を迎えることとなりました。年を追うごとに、応募作品の質があがっていることは毎回申し上げているのですが、今年は例年以上にその印象を強くいたしました。また、それに加えて応募者の目線が「設計者の表現」から「生活者へのサポート」へと変わりつつあることを感じています。ひとつ目の感想の要因は配色技術の向上ということになりますが、それは配色技法への追従ということではなく、個々の色や形そして素材を丁寧に確認しながら、対象が語り掛けてくるニュアンスを大切に色彩設計として組み立てていく姿です。ふたつ目の要因は、対象物件の景観

で暮らす者に、豊かさや優しさを感じさせる環境を提供しようという姿勢です。このふたつの姿勢は、周辺景観の様子をあるがままに記述し、その先にある造形を抽出するという点で共通したものがああります。今年の4月、東京ミッドタウンで「控えめな創造力」という展覧会がありました。「控えめ」は英語でいうとハンブルという言葉になりますが、ハンブルという語源はヒューマンにあたるということです。すこく人間的な景観というものが時代的に求められているということで、今年の審査ではヒューマンな作品が選ばれたのではないかと感じています。

審査員 委員長 赤木 重文 一般財団法人日本色彩研究所 理事長
委員 田嶋 豊 多摩美術大学 建築・環境デザイン学科 准教授
芝浦工業大学 建築学部 非常勤講師

委員 永井 香織 日本大学 生産工学部 建築工学科 教授 工学博士
委員 桜井 輝子 東京カラス株式会社 代表取締役
一般社団法人日本色彩学会 理事 (教育普及担当)

後援 経済産業省 国土交通省

報道関係協賛 (株)日刊工業新聞社 (株)化学工業日報社 (株)日刊建設工業新聞社
(株)日刊建設通信新聞社 (株)塗料報知新聞社 (株)塗料界展望社
(株)日本塗装時報社 (株)コーティングメディア (株)住宅産業新聞社
コーテック(株) (株)工文社 (株)橋梁通信社

協賛団体 東京商工会議所 (一社)全国建設業協会 (一社)日本建材・住宅設備産業協会
(公社)日本建築士会連合会 (一社)日本建築学会 日本建築士上学会
(一社)日本色彩学会 (一財)日本色彩研究所 (一社)色材協会

(順不同)
(一社)：一般社団法人、(公社)：公益社団法人、(一財)：一般財団法人

主催団体 一般社団法人日本塗料工業会

▶ <https://www.toryo.or.jp/>

日本塗料商業組合

▶ <http://www.nittosho.or.jp/>

一般社団法人日本塗装工業会

▶ <http://www.nittoso.or.jp/>



第27回受賞作品

第1回～第26回の受賞作品(最優秀賞、優秀賞、特別賞)は日本塗料工業会のホームページにてご覧下さい。

▶ <https://www.toryo.or.jp/jp/event/GPC/index.html>